

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームくぼたを家と考えており、事業理念として、「ゆったり生きる、うっとり味わう」を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝令の際、全職員で理念を唱和し日常の支援に役立てている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホール内理念、サービス方針の掲示はしているが、家族・地域の方々には浸透していない。	○ 事業理念、サービス方針記載の広報誌等を作り、今後アピールしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物の際の挨拶程度であり、近所付き合いとはいえない。	○ グループホームでの行事やイベントに日常的に来てほしいがアピール方法が難しい 今後の課題である。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議、月1度のクリーン活動、ふれあいのつどい等に参加し交流する機会を増やしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域貢献として月1度のクリーン活動をしている。</p>	<p>○</p> <p>今は、法人としてだが、今後グループホームとして認知症とは・・・等の介護教室を開く予定あり。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価研修の参加、過去の評価結果を生かした取り組みをしている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者の状況、活動状況を報告し、意見を求めその意見をサービスに活かしている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>連絡、報告し市町村主催の研修などに参加し、サービス向上に努めている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>なし</p>	<p>○</p> <p>今後、研修会、勉強会に多く参加し、学んでいきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月1度の寮母会議などで話し合い、防止に努めている。</p>	<p>今後、研修会、勉強会に多く参加し、学んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書、重要事項説明書等を用いて説明し、理解を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症の為、表す事は難しいと思われるが、表情等を観察し支援している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者状況については、必要であれば随時、必ず月1回は報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情に関しては過去1度も受けたことはないが、苦情受け付けに関しては明示してある。	○ 今後、意見箱の設置を考えている 意見等がよせられた場合、運営に生かしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員満足度アンケートを行い、把握に努めている。寮母会議などで意見や提案を多く出してもらい、業務に生かしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1日の中で対応が1番多い時間帯に人員を確保したりし、寮母会議にて話し合いの場を設けている。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの存在という事で移動等はあまりしないようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>種々の研修への参加、資格取得の機会を増やしている。研修会の広報の掲示がある。(法人・グループホーム内)</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流会やグループホーム協会などの活動に参加する機会を増やしサービス向上に努めている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>話す機会を増やしているが、直接ストレス解消になっているのかわからない。</p>	○	<p>会議等だけではなく、話やすい人に話やすい場をつくり環境を整え、ストレス解消に努めたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2度の職員自己評価をし、面接を行い話し合う場を設け、各自の向上心理解に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人から話しを聞くと言うよりは家族や提供先の情報を重視していた面が多い。	○	家族の来所にて入所を進めて行く場合が多かった ので訪問等も考え、直接ご本人と話す機会をふや したい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の段階では、深い話も出来ず管理者となり1年少し深い話が出来るようになってきた。 気軽に話せる雰囲気は作っている。	○	相談の為の来所時や入所契約時に気軽に話せる場 作りに今後取り組みたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関より入所希望される場合には管理者、職員が面会し判断、他機関を紹介する場合もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所してから不安を取り除く為に家族の面会を多くしてもらい、馴染みの家具や布団の持ち込み、医療機関や理容店などはそのまま利用してもら う。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームくぼたを家と考え、お客様というより家族として接するよう心がけている。時間を共有し職員も利用者に対して感謝の気持ちを忘れない。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の変化時は報告し共に考えてもらう。行事に参加を促し時間を共有することで喜怒哀楽を共にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人と家族の関係が良い方向に継続するよう見守り、時には仲介する事もある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの物を置くことにより安心感を持ち理容店や医療機関等昔ながらの行きつけをそのまま利用して頂くようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を見守り、喧嘩時は時間をみて仲介に入り孤立している方には職員がサポートに入るようにしている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院への入院、他機関への入所の際は面会などしている。	○	家族に対しては何もしていないので必要時には情報を提供したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活リズムや生活習慣を変えず、その人らしい生活が送れるよう心がけている。日課等は決めていない。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、知人、面会者から情報を集め、その人らしさ、個人を見つけ出す試みをしている。	○ 入所時に聞く事が出来なかった個人の生活について、用紙を作り見直しをし、介護計画に生かそうと思う
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の生活を記録し、全職員が把握できるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位となるよう、チーム構成はしたもの活かされていない。	○ 今後、グループホーム独自の勉強会を増やし介護計画に役立てたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急な変化時については、随時修正しているが、見直し、カンファレンス、モニタリング部分が不十分と思われる。	○ 定期的な見直しをきちんとする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に時間をおって記入し情報を共有し、支援に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内に特老、ディサービス、支援センター等が併設している為、状況、要望に応じた対応がすぐ出来る。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源を利用しながら、生活を送っている。地域の方による、ボランティアでは元盲導犬の来所、習字クラブ、花クラブを実施している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の意向にそう方法で、他のケアマネジャーとの連絡・調整も支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営会議にも常に出席してもらい、情報を共にし協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>グループホームの主治医として医師は定期的に回診しているが、本人・家族の希望により、馴染みのかかりつけ医の方もおり家族と共に支援している。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要時には、職員も同行し指示を頂く。</p>	<p>○</p> <p>職員が気楽に相談出来る専門医の確保には、至っていない。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>常に同じ看護婦による健康管理をしており、利用者も安心しており、職員もアドバイスを受けていたりしている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>退院後、グループホームでの生活が、可能であれば受け入れ体制を整えておくと、不可能な場合、ケアマネを通し他機関へ紹介している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>週1回の医師の回診時指示を仰いでおり、必要ならその都度家族と話し合いの場を設け全職員方針を共有化している。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>開所5年目を迎え利用も重度かしているのが現状である。</p>	<p>○</p> <p>どこまで、自分たちで関わりを持つのか見極めの時期だと思う。これから全職員で話しあい決めて行きたい。</p>

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者に負担のかからないように、細かな点までの情報交換及び情報提供を行い、変わらない生活が送れるようにしている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーを尊重しその人のペースに合わせ、又自分の時間をもてることで、プライバシーの確保に努めている。記録についても情報の保護には気をつけている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が自己決定する場を多く取り入れている。一日の過ごし方、入浴日、誕生日や行事等は、個人の希望に添い行っている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日課を決めず、出来るだけ一人一人のペースに合わせている。例として、入浴・消灯・起床・食事</p>	○	<p>一人一人のペースといっても集団生活の為強制してしまう場面もあり「その人らしい生活」とはどのような事なのかは今後の課題である。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみ、好みの洋服選びについては、利用者と共にいるが、理容については、出張して頂ける理容店で行っている。希望には添えていない。但し1名は、家族と共に美容院へ行く。</p>	○	<p>以前は半数近くの方々が家族と共に馴染みの美容院は行っていたが、認知・車椅子等になってしまい不可能になってしまった。今後はおしゃれ・身だしなみという面を考えて、取り組んでいきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食ではないが食事の希望を取り、希望に添える献立作りをしている。食事の準備として野菜の皮むき、刻み等をしてもらい、その人が出来ることをしてもらう。片付け、お膳を台所まで運んでもらう。	○	ADLの低下等により、出来ることが限られてくるが、今できる機能を失わないよう維持していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	以前は居酒屋ということでお酒を飲む機会もあったが、お酒を飲みたいという利用者が減り、おやつバイキングを実施している。利用者の嗜好に合わせている。	○	お酒を飲みたいと言う利用者もいるので、そのような場を設けたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の持っている能力を生かせるよう利用者にあった方法、ペースで行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望、入りたい日に、入りたい曜日に強制せずに行っているが、時間や順番については、希望通りではない部分もある。	○	時間帯においては、午後2時より5時までで1番に入りたいという希望者が多い。希望通りにするためには考える課題が多い。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活習慣にそっている。起床・昼寝・消灯等は特に決めていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の出来る、得意な事、役割を与え責任感を持ってもらう、昔得意だった縫い物、習字、洗濯物たたみをしてもらう等、一人ひとり特技を生かし支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、3名の方しかお金を所持しておらず、使う機会がないのが現実	○	買い物などを増やし、お金を使う機会を増やしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出等は自由であるが、自ら外出する人はいない。	○	自由に外出出来る場作りに努めたい。職員が付き添い、外に出る機会を増やしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望時はお墓参りや買い物等外出の機会を支援している。家族と共に出かける利用者も多い。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は寮母室内しかないが、いつでもかけられるようにしており、手紙を出す利用者もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由であり、面会時はゆっくりと過ごして頂く場作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアに取り組んでいるが、夜間帯、4本柵使用者の方が一人おり、家族に承諾も得ている。		今後、夜間においても柵を使用せず支援出来る方法を検討したい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道に出る門扉は閉めている。 居室、玄関の鍵はかけていない。	○	門扉は鍵をかけているので、かけない努力はしているものの、実行していない。今後の課題である。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常生活を強制する事なく、本人のペースに合わせて生活できるよう努めており様子を見守り、安全には努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物は排除しているが、家庭的な雰囲気大切にしているので常に職員が気にかけて注意をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為にマニュアル作成、書類整備、訓練を取り入れる事により防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会、訓練に取り組んでいる。	○	今後定期的に実施したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練を実施している。	○	グループホーム内では行っているが地域の方々の協力という場面においては出来ていない。今後の課題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時はもちろん随時必要な時に家族に説明し職員間で話し合いを持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に看護婦、全職員情報を共有化し対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護婦指示のもと、服薬管理をしている。週1回主治医の回診時には報告指示を受けている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便チェックは必ず行い、便秘時には水分、運動、食事に心がけている。ヨーグルトや果物等を取り入れている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後全員口腔ケアを行い清潔保持に努めており、必要があれば、歯科受診をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量のチェックをし一人一人に合わせた食事を考えている(刻み、粥食) 併設している特養の管理栄養士の指導も受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアル作成しており対応の取り決めがされている。	○	実際、感染された利用者がないので対応まで実行していない。今後も研修、勉強会などを開き、予防に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に清潔を保ち食中毒予防に努めている。1日1回の消毒、買だめせず、新鮮な食材を使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰でも気軽に訪問出来るようにしている。	○	家族、親類等の面会は多いように思えるが、近隣の人達との交流が少ないので、今後は増えるよう努めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する場所については誰もが使いやすく不快な思いをしないよう配慮し、季節感を味わって頂く為に季節のもの、花等を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり思い思いに過ごせるスペースや共同で使うソファ、畳部屋などを配置し利用者がくつろぎやすい場所を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室において家具や布団など利用者が使い慣れた馴染みの物を置くことにより居心地のよい空間作りをしている	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	清掃時必ず換気を行い温度管理には常に気を付けている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	残存機能を生かし今ある力で必要な福祉器具を使い生活が持続するよう支援している。必要であれば手すり等を取り付け安全に暮せるようにしている。	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	物品等を出来るだけわかりやすく、シンプルにする事で迷わず行動できるようにしている。	
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	苑庭花壇には、季節に花を植え、池には鯉や金魚を飼う事で楽しんで頂いている。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業理念として「ゆったり生きる。うっとり味わう」を掲げている。1日の生活の中で一瞬でもホッと心落ち着く場所、自分の居場所があれば、人は自分らしく生活出来ると考えているからである。グループホームくぼたが、第2の家、いや、第1の家になるよう、ゆったり、のんびり自分らしく自分の生活が出来るような家を職員一同目指している。

サービス方針として「その一瞬、一瞬の笑顔を大切にする」を掲げている。人は1日中笑ってはいられない。時には怒り、泣く事もある。喜怒哀楽があるからこそ、笑顔が大切と考える。認知症の為すぐ忘れてしまう、だからこそ、笑顔を増やしその一瞬を大切にしたいと考えています。私達職員はその時間を多く持てるよう努めている。